

Zaitoune Meknèssa

Meknès of the Olives

モロッコでの活動レポート



操作方法を各自スマホで撮影し、復習できるように記録しているところ

La journée pour étudier l'informatique

ー活動について Vol.8

WORD の学習を終えて

Excel の授業が始まりました。Microsoft Office の学習の中でも、Excel 関数は特に重要な位置づけです。私の経験からも実際の業務で活躍するためには必須。特に注力して演習の強化に努めました。

実はこれまでの学習状況から、算数の学習の習熟度や商業に関する知識事項も含まれてくるため、理解が深まるのか、学習を断念してしまうのではないかと考えた、心配や懸念事項は多々ありました。

しかし、そんな私の心配を覆すように、順調に習得し、演習での実践を発揮した生徒が何名も現れ、彼ら自身が学習することを楽しんでいる様子に驚き、本当に感動しました。厳しく指導してきたこともあり、彼らの成長していく姿が、とても嬉しかったです。

また、この時期にはイスラム教の宗教行事の中でも重要なラマダン月が1ヶ月あります。そのため、生徒も日々の活動は省エネモードになります。出席率や集中力の低下が考えられるため、それに合わせて、比較的容易な PowerPoint の学習を行いました。昨年の様子をふまえて、事前に同僚と、この逆算スケジュールについてディスカッションや進捗の確認を続けてきたことは、正解だったと確信しています。

ラマダンが開けると、最後の難関 Access の授業と、卒業試験に向けてさらなる習熟度の向上を目指して、繰り返し演習実施し、実力強化を進めていきました。

ラバース ア" リーク Labas 3alik?

みなさま、お元気ですか？
残り任期を半年後に控え、2度目のモロッコの夏を迎えています。
中川可奈子です。

JICA 海外協力隊

香川県善通寺市育ち、東京のIT通信企業を退職。現在モロッコで6番目に大きな都市「Meknès」で、「PCインストラクター」として活動しています。



最近、モロッコの伝統衣装であり、女性の普段着でもある“ジェラバ”を着用し、ヒジャブ(スカーフ)も上手に被れるようになりました。細かい砂埃や紫外線から髪や肌を守ることができ、快適です。

▼以下のQRコードより私の過去の活動レポートをPDF(拡大可能)でご覧いただけます。



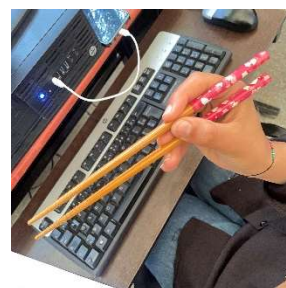
Le cadeau du Japon ー活動について Vol.9

日本からの贈り物

活動期間中、唯一1年携わることができた3コースの生徒に、“香川県青年海外協力隊を育てる会”より送付いただいた“お箸”を、折り紙で作った箸袋を添えて、プレゼントさせていただきました。



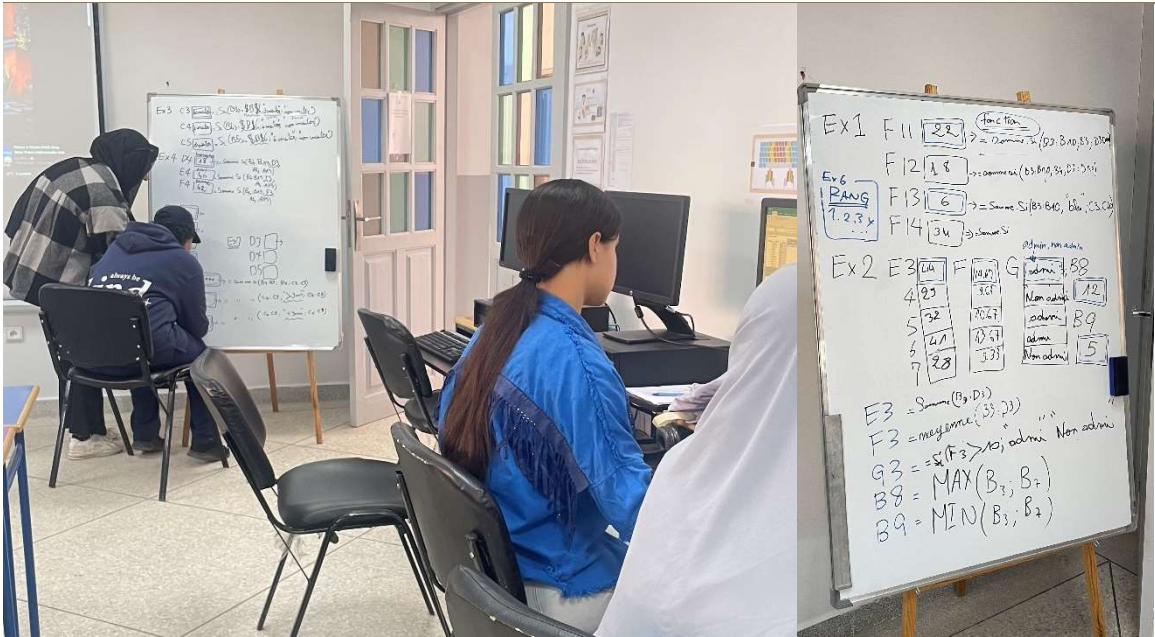
実は、私の生徒たちは、PCを学びに来ているので、日本のプレゼンス向上のためと日本の押し売りをしないように気を付けて活動していました。そのため、持って帰ってくれるだろうかと不安だったのですが、多くの生徒が持ち方や使い方を教えてほしいと言い、難しいと言いながら、



持ち帰ってくれて、嬉しかったです。中には、生徒の子どもが、その箸を使って、いつも食事をするようになったとも聞きました。



また、お礼にモロッコをもっと知ってほしいとラマダンのお菓子などを頂きました。



同僚講師不在の日の Excel 関数の演習の様子

La Journée pour apprendre les fonctions d'Excel —活動について Vol.10

----- 同僚講師不在の日

実は、活動先センターの講師たちは、他の仕事と兼務で働いています。そのため、他の仕事の方がメインであり、そのスケジュールの都合などで、休講せざるを得ないときもあります。

ある時期、数日休講せざるを得ないことがありました。しかし、Excel 関数の演習を進めている時期だったため、私一人で授業を開講することを申し出て、実施してみることにしました。

その機会を利用して、関数の数式をあえてホワイトボードに書かせ、ロジックを目で見て理解してもらったり、全生徒の答え合わせにも使用しました。

PC の学習や作業は、各生徒のそれぞれの PC の中で行われます、1 対 1 での指導が不可欠ですが、なかなか全ての生徒を見てあげることが難しい事もあります。しかし、あえてホワイトボードに書くと言うアナログな作業を生徒自身が行うことで、自然と生徒同士で間違いを指摘し合ったり、間違いに気づき、教え合ういい機会になりました。これらの日を通して、生徒同士で聞き

合い、教え合う流れを生むことができ、すぐに先生に答えを聞くのではなく、生徒同士で試行錯誤し、学習を深めてもらうことも大事だと感じましたし、その流れを講師が作ることが重要だと実感しました。



とある授業終わり、センターの近くに住む生徒のご自宅にお邪魔させていただき、手作りのランチをごちそうになりました。チキンタジンと色とりどりの野菜とフルーツのサラダ。モロッコではお米はサラダになります。

また、その生徒は、アマジス(ベルベル)の出身で、日本の人々に見て欲しいと、私に彼女の花嫁衣裳を着せてくれました。(モロッコの伝統的な花嫁衣裳はカフタンと言うものになります。)



イード アル アドハー Eid al-Adha

----- 犠牲祭 2024

2 度目の今年は、昨年よりさらに羊の価格が高騰し、犠牲祭前に持ちきりになる羊の会話は少々控えめに感じました。1 頭犠牲にできない家庭を配慮していたのだと思います。昨年はなかったスーパーの店頭の切り売りの広告もありました。



昨年は近所で見かけなかった犠牲祭の様子で

すが、なんと私のアパートの地下駐車場に 2 頭いました！そして、犠牲にする様子を見学させてもらう代わりにカメラマンを担うことに……。後でわかったのですが、この 2 頭は背が高く、高価なんだそうです。

犠牲祭当日は Taxi などの移動手段もお休みのため、数日後、同僚のご自宅に招待してもらい、お父さんの起こした炭でケフタを焼き、私の大好きなクスクスを同僚のお母さんが作って、ごちそうしてく



れました。甘い玉ねぎとゆで卵が印象的でした。

ラ マ ダ ン キ ャ リ ー ム

Ramadan Kareem — Ramadan 2024

今回のラマダン、私はとっても待ち遠しく思っていました！街が賑わいを取り戻す一方で、胸がざわざわするようだったから。そして迎えた今年のラマダンは、より人々と同じように過ごすよう努めました。一日の断食明け、日没後のフトールは、友人宅や友人の親戚宅も一緒に訪問し、多種多様なラマダン料理を楽しませてもらいました。



お祈り後に食事する人もいれば、預言者に倣って牛乳とデーツを食べてからお祈りし、食事する場合も。また友人宅では 23 時に 2 度目の食事があり、各家庭によって夜中の食事時間が異なったり、AM2 時に鳴る大砲は、日の出前のお祈りを前に食事をするよう人々を呼び戻すためのものなど、知らないことがたくさんありました。

また、お店で提供されるフトールを食べに行ったり、友人宅のおすそ分けを頂いたり。Harira スープも食べ比べたり、自分でも何度か作ってみたりもしました。



また、ラマダンと言う期間は自分を見つめ直したり、読書をしたりして自分磨きをするために最適な期間だと気づきました。



アガディールカスバから見下ろすビーチとマリーナ

Mon petit voyage 任国内旅行— Vol.4

アガディール AGADIR

任地MEKNESの隣町FESにあるFEZ空港から国内線で下り立ったAGADIRは、勝手にこじんまりとした町のイメージでしたが、とても大きく開けたリゾート都市でした。



ここには横浜のみなとみらいと同様なケーブルカーが出来たと知っていたため、行ってみたい場所の一つでした。地上の乗り場も、山頂も綺麗に整備されており、とても快適に楽しめました。残念ながら、ここでも地震の被害のため、

山頂のカスバには修繕中で立ち入ることができませんでした。それでも、そのケーブルカーで山頂にあるカスバまで、AGADIRの街と海と空を一望する景色を独り占めできました。



ここを故郷に持つ生徒もおり、アラブとは異なるベルベル/アマジスの人々や文化があると教えてもらっていたのも訪問のきっかけでした。大きなスークで買い物を楽しんだり、海沿いの街ならではの海の幸の料理を堪能しました。



エッサウイラ ESSAOUIRA

魅了された日本人も多い青と白の漁師町のESSAOUIRA。こちらは大きな都市のイメージでしたが、コンパクトながら歩きやすく、おしゃれな店も多い観光都市でした。



宿泊したRiadはメディナの中心にあり、目下で町が支度を始めるのを屋上テラスで朝食をいただきながら眺め、朝の風を肌で感じる時間がとても幸せでした。私は利用しませんでした。サーフィンなど、海のアクティビティもありました。

海の幸のスープや、日本にも輸出されているモロッコのタコのタジンを頂いたり、路面店などで買い食いをして歩いたり、おしゃれなコンセプトショップ(雑貨のセレクトショップ)を見て回り、カフェで過ごす時間も心地よかつ



たです。買い物をしたらお茶代をサービスしてくれたオーナーの元では日本好きのスタッフが働いていました。

マラケシュ MARRAKECH



任期を1年4ヶ月を経てやっとマラケシュへ。そして念願の日本人妻の営むRiadに宿泊。

TVの中に入り込んだような不思議な感覚でした(笑) メディナ散策にぴったりの立地で、すっかりマラケシュの常宿に決定です!



-Dar mirai-

5年ぶりのフナ広場

相変わらずの賑わいとフナ広場の屋台の少々うざい感じが懐かしく、夜には広場にステージが組まれ、音楽イベントの開催もあり、Riadの屋上テラスで夜風を感じながら、音楽も楽しみました。マラケシュのメディナはまだまだ迷子になる不安があり、新市街地のギリーズにあるおしゃれなお店開拓に繰り出したいです。



マラケシュの郷土料理

壺煮込み料理のTangiaと床下の窯で子羊を丸焼きにしたMéchouiが有名で、今回はTangiaを頂きました。また、初めてモロッコで食事した店も再訪。レーズンを使用して甘く煮込んだ玉ねぎと牛肉のTAJINEを頂きました。





最近のモロッコでは様々なワークショップが活発に企画されています。

Marocaine Workshop - モロッコの伝統技術を学ぶ -

----- 絨毯づくりのワークショップ -----

モロッコでは毎年犠牲祭シーズンに大量に出る毛皮、羊毛があります。それを活用して絨毯が制作されます。特にベルベル民族による手仕事はデザインも可愛く、観光客にも人気です。一方で、生産者、作り手に正当な対価が支払われていないという流通問題もあります。そこでフェアトレードに力を入れて、それらの透明化と適正化に取り組んでいる女性たちがいます。そこではそれらを体験することができるワークショップが開催されおり、カラフルな毛糸玉に囲まれた中庭の空間で始まったワークショップでしたが、手のひらを広げたくらいのサイズで、なんと約5時間かかりました。一つ一つ手作業で、多彩なデザインを施しながら作る絨毯は相当な時間と労力がかかっているということを感じました。



メディナの絨毯屋は強引な客引きで、ぼったくりとしてガイドブックに注意書きされていますが、もっと丁寧に作り手や制作過程をセールストークにすべきところが出来ていないんだなあと残念なことに気付きました。

----- HENNA ART -----

ラマダンの終わりを迎えるころ、活動先のセンターで手を引かれ、イベント中の会場に連れていかれました。そこではヘナアートを行っており、私も両手に施してもらいました。スルスルと描かれる細かく美しいヘナは乾くとポロポロと外れ落ち、その下には描かれた模様がオレンジ色に肌を染めています。1週間ほどで、消えてしまうのは残念ですが、気軽に楽しむことができます。



モロッコでは結婚式や、今回のようにラマダンの終わりを迎える時などお祝い事がある時に女性たちのおしゃれとして施されます。また、魔除けの意味もあるそうですよ。

La cuisine japonaise モロッコで日本食 -VOL.3-

-----手作り“白あんこ”-----
他隊員から頂いた、モロッコで手に入る豆を使用した“どら焼き”をきっかけに白いんげん豆で“白あん”を作ってみました。上手にでき、喜んだ一方で、数日家を空けるタイミングと重なったため、冷凍庫に入れて出かけました。帰宅し、ひとかけ凍ったまま口に入れると、懐かしい味の“あずきアイ



ス”ができました。また、モロッコの朝食メニューの一つであるバグリールに挟んでみると、白あんのどら焼きと言うより、隣県の名物“むらすぐめ”みたいになりました。



-----練りごまメニュー-----
モロッコ料理で使用されるものではありませんが、練りごまの代わりに、中東地域の料理で使用される生ゴマをペーストにした“タヒニ”が手に



入ったので、ごまサバ改めごまあえサーモンにしてみました。また手作りのラー油などを合わせて、乾麺や春雨で、担々麺も最近良く作っています。



----- 大根の漬物 -----

モロッコの大根は、日本のように大きくなく、小ぶりです。日本から、持ってきていた昆布と唐辛子で漬物を作りました。かぶの様な甘みのある漬物が完成しました！





Le séisme de 2023 au Maroc - モロッコ地震のその後 -

発生日時：2023 年 9 月 8 日 23 時 11 分 1 秒（現地時間）

日本の気象庁における、震度階級に換算して震度 5 強-6 弱程度に相当する揺れにより、多くの家屋や建物が倒壊。

震央に近い^{アル ハ ウ ズ}Al Haouz州を中心に甚大な被害が生じ、死者 2960 人、負傷者 5674 人（2023 年 9 月 14 日現在）

その日は友人に誕生日を祝われ、幸せを感じながら一日を終えようとしていた時でした。小刻みな揺れで頭上の照明が揺れている。日本とは造りの違う建物は、ブロックを重ね、綺麗に塗り上げた壁でできている。その壁が、私に向って飛び出すように崩れてこないかと思うと、日本での地震と比べ、違った怖さがありました。モロッコ全土を揺らしたその揺れはかなり長く続きました。私の住むアパートの玄関扉は建付けが悪く、これはやばいと急いで扉を開けると同時に、同じアパートの人たちが次々と 1F へ降りていくのに気づきました。

近隣では大きく崩れたりするような被害はなさそうだったので、彼らと一緒に外で 1 時間くらい過ごしました。アパートの入口には、開け閉めするにも重さを感じる鉄扉があり、彼らはこの時とばかりにきちんと閉めるのです。それを開ける日本人の私は、地震の時は閉めてはいけない。開けるんだと教えました。彼らは、日本が地震の国であることを知っていたので、素直に聞いてくれました。アパートのガーディアン(常駐の警備兼御用聞き)は、1F にある銀行の大きなガラスが波打っていたと説明していました。(幸い被害なし) 0 時を過ぎ、インターネットや電気などは問題なく使用できていましたが、震源地や震度の情報がすぐに入ってきません。誰かが南の方の遠い場所だと情報を得て知らせてくれたのをきっかけに、徐々に部屋に戻っていきました。

しかし、その後も数時間は、ネットのニュースや SNS 等では、なかなか情報が得られず、朝方になって、日本でもニュースが流れ始め、どうか被害が少なく済むようにと、祈りながら眠ったのを覚えています。やはり、あまり眠れず、目を覚ます度にニュースをチェックしていました。やはり死者が出たと知り、これ以上増えないでと祈りながら再び目を閉じました。

コロナ禍を経て、念願叶ってなんて言われて、モロッコに来られました。日本のように地震への対策がないだろうことは容易に予想でき、建物自体の脆さ、そういったところに住む人々がいることを知っていただけに、防げたはずの被害も想像でき、大好きなモロッコの人々が傷つき悲しむだろうことがあったという間に脳裏を占めて、苦しかったです。

JICA 海外協力隊としてココにいる。できることはしたい。でも何もできないんだろうと言う無力さも分かっていました。数日後、やはり現実のマラケシュなど被災地域へ近づくことを禁止する周知でした。結局、私たちはこの立場でここにいながら何もできませんでした。

悲しみを共にするモロッコの人々。静まり返った街。そんな中、モロッコの人々は物資をかき集め、被災地に運んでいました。私のアパートの下を大きなトラック 3 台と中型トラック 1 台が、物資を積み、行ってくるよとクラクションを鳴らしながら出発するのを“お願いします”、“よろしく”、“頑張って”と見送りました。

イスラム教徒同士は兄弟・姉妹。だからモロッコの人々も困っている人への手助けや協力を惜しまない。考えるより先に行動してしまっているのではないと思うくらい、それはいつも行動を通して行われます。

そんな中、在住日本人の方が地震のあった翌日に義援金募集を立ち上げてくださいました。1 口 5000 円でこれから寒くなる被災した山奥の村に毛布を届けようと言うもの。たった一週間で、想定の 10 倍!をはるかに超える義援金が集まったそうです。これは私にとって、ただの義援金集めではなく、大好きなこの国に居ながら何もできないでいる私の心も救ってくれるものでした。また、「地震で孤児となった子どもたちは『国家の子ども』として育てる」と言うモロッコ国王の言葉にも本当にしびれました。



山の土を使用し、一体化するように美しい景観をもつ集落



かまぼこ型をした仮設住居



この辺りでは一番被害が大きかったと言う集落



昔ながらの方法で家を修復する職人さん

La Vie et reconstruction d'un village de montagne - 山奥村での暮らしと復興 -

そして、この度、被災から10か月を迎える6月末、その方を訪ね、直接お会いし、お話を聞かせていただく機会を頂いたので、ここに残したいと思います。

この日本からの義援金は、結果、毛布を始めとした物資はモロッコの人々の力で十分なほど集まっていたのが現状でした。そのため、震源地近くのように壊滅的な被害が生じたわけではないものの、被害が伝えられる機会が少ない地域の支援のため、74の村落の集合体となる地域にて、家などの修繕費用の捻出のために親が子どもが学校に通うことを制限するような事態にならないよう、送迎バスの費用・新学年開始に伴う教科書の購入代行等に支援目的を切り替えて実施されました。

こうして私が文字にしてしまうと簡単に伝わってしまうかもしれませんが、お金を集めることも、それを使用するにあたって、どこにどのようにして平等に公平に透明性を持ってできるか、実際に行動される苦労は計り知れないものです。実際に裏側のお話を伺い、より尽力いただいた実情を知り、言葉がありませんでした。

支援先の地域は本当に山奥にあり標高もかなり高い場所に小さな村が点々と存在します。そのため、頻繁に通えるような距離感ではなく、片道数時間。また、舗装された綺麗な道ばかりではない、山々を走行するため、安全を確保した車や運転手も必須だと思いました。

また、その方が営む宿も被災しており、被害がまだ残っていました。実際に宿泊させていただき、と一つても素敵な私の好み大刺激な建物と装飾。これをこうして作り上げられた努力や歳月を想像すると、壁などに残るひび割れは身体を傷つけられるように痛々しく感じました。

そして次にお伝えしたいのが、この山々にあるその地の土や石を使用して建てられてきた家などについてです。全壊・半壊など被害は様々で、それぞれ復興に向けて再建が進んでいます。（支援が行き届いていないところもあるそうです。）しかし、再建にあたって、ブロックやコンクリートの建物での再建が行われており、言わずもがなみるみるうちに景観が損なわれて行っているのです。初めはそのお話がピンと来ていませんでした。地震を経験して、現代的な建物の方が安全で、人々もそれを望むのは当然だろうと。それは、浅はかな考えでした。その地の土や石を使用した村の景観はとても美しく、損なわずにその姿でそこにあってほしいと望む気持ちも分かりました。それだけではなく、その土地の物を使用した建物の方が丈夫で、気候にも合っていることも学びました。しかし、それでもなぜ山の麓や平地からコンクリートを運び再建するのか。短期間での建設が可能で、安価になるからと言うことでした。だから村の人々も本当はどちらが良いかはわかっているのですが、再建期間とお金によって景観や機能性と引き換えにこうするしかない現状を知り、また言葉がありませんでした。

訪ねる前は、山奥村で私に何ができるか？石を運ぶのか？また義援金を集めようか？なんて想像をしていました。でも今は、より何ができるか考えたいと思考を巡らせているところです。お話を伺いながら、今まで以上にモロッコと言うこの地にお尻から根が生えていくのを感じました。これがこの国に魅了された者の宿命と言わんばかりに。私に何ができるのだろうか、私がやってもいいんだろうか、と言った不安、そしてリスクはないかと人間はやらない理由を見つける天才であり、私もその一人です。でも、その方の行動力、実行力、そして直接お会いしてお話を伺うことができたこの貴重な機会を、私の今後に昇華させたいです。



ワルザザートにある日本人の営む^{カスバ}Kasbaの宿 ＊城塞(じょうさい)

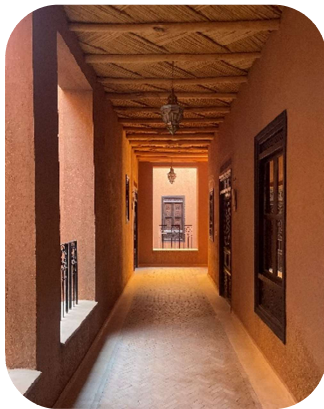
Mon petit voyage 任国内旅行― Vol.5

アトラス山脈を越え、サハラ砂漠への入口の街

これこそがモロッコの美しい街の象徴ではないかと感動を覚える赤土の建物と広大な景色が広がります。

----- KASBAH TAMSNA に宿泊

夏が始まる、そんな時期に訪れたワルザザートは最高気温 40℃を示していました。しかし、この赤土でできた^{カスバ}KASBAと呼ばれる城塞の様な建物の中は、少しひんやりして、心地よく感じました。周辺の広大な土地を見渡す日中の景色、透き通るような星空には天の川が見えていました。



また、ランチに出して頂いたのはオクラの Tajine！まだまだ知らない美味しい Tajine があります。モロッコのオクラは日本のオクラより短くしっかりしています。Tajine でお肉と共に煮込まれたオクラにすっかりハマってしまいました。日本でも言われているように、お通じにいいんだと、八百屋のおじさんたちが教えてくれます。



----- 別の名を映画の街

街の中心の外れには、付近の砂漠や山も含む、広大な敷地を活用し、多くの映画が撮影されてきた ATLAS FILM STUDIOS があります。映画撮影に使用されたセットが残された施設内を案内してくれるガイドさんは暑い中、英語とフランス語それぞれで、ユーモアたっぷりに楽しませてくれます。



ずっとここに居たい。その願いは叶いませんが、また訪れたいと思うと同時に、ぜひモロッコの旅行に、ワルザザートとこちらの宿での滞在をお勧めします。

今回は、前述の地震の被害や復興の状況などについて、お話を伺いながら一緒に過ごさせてもらいました。

お宅にお邪魔させていただき、出されたものを残さず食べるのが礼儀の日本。一方で、お残し大国のモロッコ。食事を残すことは富の象徴、ステータスと聞いていました。しかし、表向きにはそう言われているけれど、食事の場に同席しない女性たち（夫人やお手伝いさん）がおり、その裏にいる女性たちのために、“いただきながら綺麗に残す”作法を学びました。それでも食べ残った食べ物は、貧しい人へ回ったり、犬猫、家畜に回り、無駄なく消費されるそうです。また、客人を迎え、出されるタジンは、お肉が多ければ多いほど歓迎されていることの現れだとも。



敷地のはるか向こうにも、撮影用の町が見えていました。映画で使用された映像も見てみたいですね。

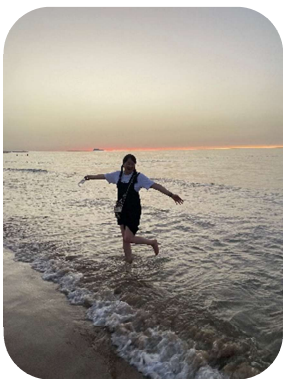




ガイドブックには載っていない街 ^{サイディア} -Saïdia-

Mon petit voyage 任国内旅行— Vol.6

モロッコの最北東のリゾート



「青い真珠」として知られるモロッコ北東部の海岸沿いの町です。北は地中海、東はモロッコとアルジェリアの国境に面しています。今回は、少し贅沢をしてプライベートビーチが備わったリゾートホテルに宿泊しました。ゴミや貝殻が落ちていないさらさらの砂と透明に澄んだ海と心地よい波の音の中、日没の景色がとても美しかったです。

朝夕のビュッフェは、さすがリゾートホテル！数種類のTajineを始めとする大好きなモロッコ料理がズラーっと並んでおり、つつい食べ過ぎてしまいました(笑)



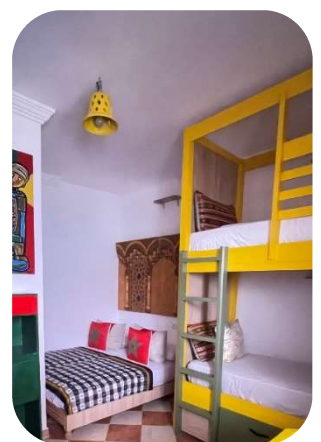
また、なんとモロッコでゴルフデビューをしました！なかなかボールに当たらずでしたが、天候にも恵まれ、広大な見晴らしの良い敷地も気持ちよく、楽しかったです。

散策中に見つけた可愛いRIAD



ビーチを眺めながらのランチを終えて、街を散策していると、カラフルな可愛い建物が目に入りました。幼稚園かなあ〜なんて話していると窓がバーンと開いて、マダムが“ウェルカム〜”と言って中に迎え入れてくれました。オープンしたばかりですが、アパートを改装した滞在スタイルに合わせた様々な部屋が用意されていました。長期滞在用にキッチンや洗濯機、ダイニングテーブルが

コンパクトに備わった部屋や短期滞在用の部屋の横には共用のキッチンが備わっており、屋上や中庭テラスもカラフルでありながらモロッコのデザインが装飾されていて、終始“カワイイ〜”が止まりませんでした。宿泊していないにも関わらず、モロッコのウェルカムスタイルのミントティーと私の好きなリングのクッキーを頂き、スタッフの男の子は私たちが探していた土産物屋まで案内をし、見送ってくれました。



- Dar Sultana-

初めてのオーダーメイドに挑戦



こちらはファラシャ(蝶々)と言う服です。自分で好きな布を3メートル購入し、メディナの縫製街に持っていくと縫ってくれます。先輩隊員さんからアドバイスを頂き、通常のファラシャと異なる点を縫製師さんに絵に描いて説明。キラキラ布を選んだので、豪華な仕上がりになりました。薄手で、夏の外出着として愛用中です。



最後に・・・

私がこの寄稿を通してお伝えしたいことは、“モロッコ”を知って、観光で訪れて、いろんな景色を目で見て、人々と触れ合ってほしい。そのために、旅行に来てみたい、体験してみたいと思ってもらえるように楽しい事や魅力を伝えています。

もしかしたら、開発途上国やJICA海外協力隊の活動について、誤解や間違っって伝わることもあるかもしれないと不安に思う時があります。

でも、一番の支援は、たくさんの人にモロッコを訪れたり、興味を持ってもらうことだと思っています。

また、活動や生活を通して、あえて記事にしていないことは、実はたくさんあります。皆さんも恥かしい事は人に知られたくないですよ。それは、ここでも同じです。

“本当はこうだったよ”というリアルな話は、帰国後の“ここだけの土産話”として持ち帰りたいと思います。